

令和5年度第2回蕨市消防委員会公開用議事録

■日 時 令和6年2月7日（水） 午後3時00分～午後4時00分

■場 所 蕨市消防本部 2階会議室

■出席者（敬称略）

委 員：小林 利規（委員長）、山崎 徹（副委員長）、武下 涼、庄野 航二、山口 武義、
今井 輝嗣、相澤 浩美

事務局：野崎 好伴（消防長）、小林 順（次長）、鈴木 経一（総務課長）、
太田 栄（予防課長）、横山 義治（副署長）、川邊 ユカリ（総務課長補佐）、
岡庭 雅俊（総務課長補佐）、田中 宏明（予防課係長）、田中 宏典（総務課主任）
杉山 歩（総務課副主任）

傍聴者：1名

■次 第

1 開会

2 消防委員長挨拶

3 消防長挨拶

4 議題

（1）令和5年中の火災・救急の概要について

（2）令和6年度消防本部所管歳出予算（案）の概要について

（3）令和6年春季全国火災予防運動について

5 閉会

■議題

（1）資料に基づき、令和5年中の火災・救急の概要について説明

委 員：三重県松阪市で救急搬送された患者のうち、入院に至らなかった軽症患者から保険適用外の「選定療養費」として1人（件）につき7,700円（税込み）の徴収を開始するとの報道があったが、この報道を受け蕨市消防本部ではどのようにとらえているか。

事務局：三重県松坂市では、令和6年6月から市内3つの基幹病院に搬送された患者のうち、医療機関が緊急、重症でないと判断した場合に7,700円（税込み）が徴収されることとなっておりますが、こちらは消防機関ではなく医療機関が判断するものであります。令和6年度から医師の働き方改革が始まるなど、国

として医療関係者の負担軽減に取り組んでいる状況の中、松坂地区広域消防組合の昨年中の救急出動件数は、16,180件という過去最高の件数を記録しており、周辺医療機関への負担もかなり大きなものがあると考えられます。蕨市における1万人あたりの出動件数は、松坂市と比べますと若干低い状況であり、すぐに導入を検討する状況ではないと思います。しかしながら、導入については、選択肢の一つとして、今後の状況に応じて検討されていくものと考えられます。

委員：今回の松坂市で導入された制度は、救急車の有料化ではなく入院を必要としない救急搬送患者から、医療機関の判断により初診料を徴収するということか。

事務局：そのとおり。

委員：仮に松坂市の制度を蕨市の医療機関にも導入した場合、救急隊の労務管理的になにかしらの効果を見込めるのか。

事務局：昨年中の傷病程度別搬送人員をみると軽症患者の割合が高いため、出動件数が減る可能性があり、出動件数が減ることで、職員の負担軽減が見込まれます。出動件数が減ることは、市内全ての救急車が軽症患者の対応に追われ、重症患者に対応できない事態を減らすことができるというメリットも考えられます。

(2) 資料に基づき、令和6年度消防本部所管歳出予算(案)の概要について説明

委員：令和6年度消防費歳出予算(案)消防費01常備消防費消防・救急活動費今年度予算額6,348万9千円となっているが、昨年度予算額2,793万5千円に比べ約3,500万円の増額となっているが、資料6ページにある半自動除細動器を複数購入することによるものなのか、その他に何か購入するための増額なのかお聞きしたい。

事務局：半自動除細動器の購入予定数は1台となっております。その他、高機能消防指令センター・消防救急デジタル無線部分更新に伴う費用約2,800万円が増額の一番の要因となります。

委員：半自動除細動器とは、こういったものか。

事務局：公共施設等に設置されておりますAEDが、全自動除細動器になります。全自動除細動器は、自動で心臓の波形を解析し、電気ショックの必要性の有無を判断しますが、半自動除細動器は、ショックの電圧を調整できるほか、救急救命士が心臓の波形を観察し、救急救命士の判断によって電気ショックを与えるものです。

委員：令和6年度更新予定の消防ポンプ自動車について、従来車両より小さいものに仕様変更されるようですが、性能的には従来車両に劣ることはないのか。

事務局：令和6年度購入予定の消防ポンプ自動車は、令和5年度に更新しました第3分団の車両と同じものになります。両車両とも車両重量3.5トン未満になりますので、普通自動車運転免許での運転が可能となります。そのため、運転免許の区分により制限されていた機関員養成の面で、将来的により多くの団員が機関員を担うことが可能になります。ポンプ性能等につきましても従来のものに比べて、同様の機能を有しておりますが、積載量は減ってしまいますので、常時積載しておりました可搬ポンプを降ろしていただき、有事の際には改めて積載していただくという形になります。積載量が限られておりますので、常時積載する資機材につきまして、各分団の意向を反映させながら運用していければと思います。

事務局：令和6年度購入予定の救助避難ボート2艇ですが、消防団用としての購入を予定しております。配備場所につきましては、今後の消防団幹部会議にて諮り決定したいと思います。また、将来的には各分団に1艇の配備ができればと考えているところです。

(3) 資料に基づき、令和6年春季全国火災予防運動について説明
特に質疑なし

以上